

平成14年2月28日



平成14年1月 マンスリー レポート

集計企業数 40 社

販売構成比・前年同月比

	全店 売上高		既存店 売上高	
	構成比(前月)	前年同月比(前月)	構成比(前月)	前年同月比(前月)
総販売額	100.0%	102.0%(101.0%)	100.0%	99.2%(99.4%)
食料品	72.5%(71.4%)	103.1%(102.3%)	72.3%(71.3%)	99.9%(99.5%)
農産	10.2%(9.4%)	96.1%(97.4%)	10.2%(9.4%)	93.5%(94.7%)
水産	10.5%(10.3%)	105.7%(105.6%)	10.4%(10.3%)	102.1%(102.8%)
畜産	8.4%(8.2%)	99.4%(94.4%)	8.4%(8.2%)	95.6%(91.8%)
惣菜	7.4%(7.4%)	107.4%(105.5%)	7.3%(7.3%)	103.6%(102.3%)
日配食品	15.8%(15.5%)	104.3%(103.7%)	15.7%(15.4%)	100.3%(100.4%)
加工食品	20.2%(20.8%)	105.7%(104.6%)	20.2%(20.8%)	102.7%(101.9%)
生活関連	11.6%(12.1%)	99.0%(96.6%)	11.7%(12.1%)	97.6%(95.4%)
衣料品	8.7%(9.1%)	96.9%(97.2%)	8.8%(9.2%)	95.8%(96.5%)
その他	7.1%(7.4%)	101.7%(102.0%)	7.2%(7.4%)	100.1%(100.9%)

数 値

全店総売上高	23,828,917.1 万円	店舗数	1,733 店舗
総売場面積	3,661,160.3 m ²	総従業員数	101,603 人

店舗平均月商	13,750.1 万円	平均客単価	2,143.5 円
月間m ² 売上(前月)	6.5 万円(8.2 万円)	平均店舗面積	2,112.6 m ²
月間坪売上(前月)	21.5 万円(26.9 万円)	パート比率(前月)	72.4%(72.1%)

注) 総従業員数は、8時間換算した人数です

全体概況

先行き不安からの買え控えも目立つ中、次々と会社倒産が報道され、消費者の不安も一層強まっている。特に地方では、工場の閉鎖や休業の影響を大きく受けている

年明け後も商品の動きは鈍く、客単価の低下傾向が続いている。客数が増加しても、売上高では前年割れの状況

雪印食品による牛肉偽装事件は、牛肉消費回復傾向に水を差すだけでなく、畜肉・加工品全てに、消費者から疑念を持たれる結果となった

消費者に、商品表示についての不信と不安を与えた今回の事件は、商品全体の信頼失墜となった。今後悪影響が出ないか、心配される

各社とも平日対策と思われるチラシの投入が増えている。それに伴い、買い回り傾向が増加している

商品動向

農産

青果物の安値が依然として続き、売上・利益ともに厳しい状況

水産

水産は、エビ・カニ類の動きは今月も好調。中心商材のブリは、相場も安く堅調に推移。BSEの影響を受け、例年より多少相場高の商品でも動きは良い

予約商品（刺身、鉢盛りセット等）が、好調に推移。多発テロ事件の影響から、在宅率が高かったことが予想される

牛肉売上の回復傾向から、水産の伸びが鈍化してきている

畜産

BSEによる牛肉の落ち込みは、販売数量に回復傾向が出てきたものの、その価格は大幅にダウンしている

畜産は回復傾向にあったが、雪印食品事件の問題が追い討ちをかけ後半は不調。瞬時ではあったが、豚肉の売上にも影響があらわれた

豚・鶏肉とも、相場高傾向が見られる。昨年より、売上高が好調なので利益も確保できるが、今後心配される

惣菜

牛肉売上の回復傾向から、惣菜の伸びが鈍化してきている

日配・加工食品

低価格傾向を基調に、簡便化・健康志向が相変わらず目立った
暖かい日が続き、果汁飲料など、洋日配の動きが好調であった

その他

多くの店舗が、競合環境激化への対策として、低価格訴求以外に実効性のあるものを見出せずにいる

競合店が、鮮魚・惣菜に非常に力を入れ始めている。お客様の商品に対する目も厳しくなっており、B S Eの影響を受け大幅に売上増加している店と売上に結びついていない店との差がはっきりと出始めている

競争激化を受け、今後益々、顧客ニーズに合った商品開発・創意工夫が必要

季節商品も、販売のタイミングと見せ方の工夫が必要

事件を受け、売場から雪印食品の製品を撤去。また消費者の「雪印ブランド」商品を敬遠していることを受け、チラシ掲載・特売を自粛した